

国立三瓶青少年交流の家ボランティア育成ビジョン

～「学び・気づきのある活動の場」を提供し、
社会人基礎力育成を軸として、これからのリーダーを育てます～



☆法人ボランティアの育成像(平成30年8月 国立青少年教育振興機構教育事業部)



- ①社会人としての能力を備えていること。
- ②社会形成に参画する態度を育み地域社会に貢献できる能力を有すること。
- ③自立した人間として主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造できること。

☆さんボラとして目指す姿



みんなの笑顔のための3つの信条

- 『愛情』：人と人とのつながりの中で、自他が尊重される社会を実現しようとする意欲を持つこと
- 『知恵』：自ら課題を発見し、その解決策を考え抜くこと
- 『勇気』：失敗を恐れず、一歩前に踏み出し行動することができること

※さんボラとは、国立三瓶青少年交流の家で活動をしているボランティアのこと

☆循環的ボランティア育成プログラム



☆交流の家職員のサポート体制



利用者の笑顔はひきだすのは、私たち職員自身の笑顔であると考え、元気で笑顔あふれる対応を心がけます。



私たちは、「できない」と言う前に、まずは「どうすればできるか」を前向きに考えます。



私たちは、常に利用者の安全を第一に考え、安心して研修に向きあえるよう行動します。



私たちは、この施設が社会のルールを学ぶ場であることを意識し、率先して規律ある行動を心がけます。



私たちは、次代を担う青少年の成長に関わっていることに誇りをもって働きます。



私たちは、「失敗から学ぶ」ことの大切さを、全ての業務において常に意識し、それが研修者の成長につながるよう努めます。

第一段階

育成の入口

『ボランティアとして取り組む人材を安定確保することを目指す段階』

【4つのポイント】

- ①交流の家で取り組むボランティア活動によってもたらされる、**参加者の益（活動の魅力）を十分に伝え**、「また参加したい」「自分にとってプラスになる」等の気持ちを育むことを目指す。
- ②ボランティアを行うことで得られることやどのような活動が行えるかを具体的に**みえる化**することで、今まで参加がなかった高校や大学からの新規ボランティアの獲得を目指す。
- ③We b申込を導入し、参加申込を行いやすくすることを目指す。
- ④法人ボランティア登録の場を増やすことを目指す。

第二段階

育成の継続

『自主性を重視した企画活動を行い、継続して活動するボランティアに「継続して取り組むだけの価値がある」「多くの人にも伝えたい」と感じさせることを目指す段階』

①『自主企画事業』

将来のリーダーとして不可欠な、リーダーシップを身につけるための場として、体験を通じた学びを提供する。リーダーシップをキーワードに、企画・運営の様々な場面で合意形成・問題解決を繰り返し、対人関係力等のリーダーとして必要な資質の向上を図る。

②『スキルアップ研修』・『運営補助』

青少年教育に関する専門性を高めるための学びを提供する。

第三段階

循環的育成サイクル

『「育成の入口」、「育成の継続」を包括的に捉え、継続して取り組むボランティアと、新規で取り組むボランティアを様々な事業で有機的に交流する機会を提供する。これによって、継続して取り組むボランティアが新規ボランティアを育成する（もしくはメンターとして影響を与える）機会をつくり、「育成の入口」から「育成の継続」へと交流の家職員に依存することなくボランティア同士で循環的な育成を実現することを目指す』